

## 「横浜らしい中学校給食のあり方」を発表

横浜市教育委員会は、長期にわたる調査や、常任委員会での議論を経て、平成 26 年 12 月 17 日に「横浜らしい中学校給食のあり方」を発表しました。

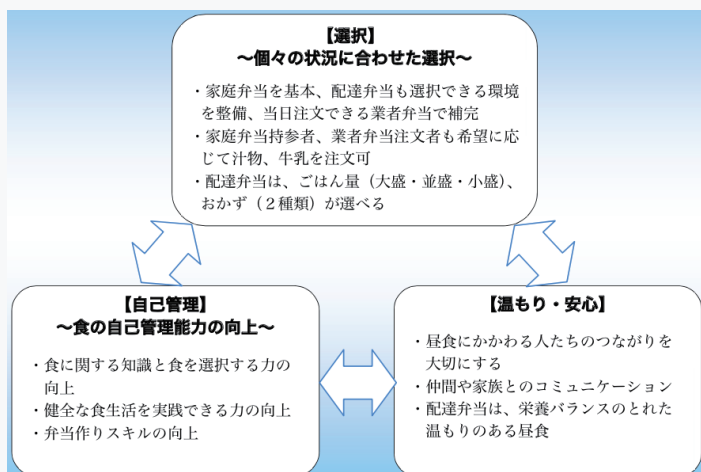
### ■中学校給食の充実に向けたあり方

- 「家庭弁当」を基本とし、「家庭弁当」と「配達弁当（事前予約）」のどちらも選択できる環境を整えることで、当日注文できる「業者弁当」で補完する
- 配達弁当は、28 年度中の全校実施を目指す

### ■横浜らしい中学校給食の位置付け

- 小学校 6 年間を通じて学んだ、一人ひとりの個性や違いに基づく「個に応じた食」の重要性を基礎
- 自ら考え、判断・選択・行動し、社会を生き抜く総合的な力を、実際の食を通じて培うことが重要

### ■横浜らしい中学校給食の 3 つの柱



### 弁当持参 = 食の選択 = 食育 ???

横浜らしい中学校給食の 3 つの柱の中には、弁当持参方式を継続する理由として「食に関する知識と食を選択する力の向上」があげられており、弁当を持参し、その中身を選択する事が「横浜らしい食育」である旨が述べられています。

しかし、ほとんどすべての自治体が、「給食の実施を通じた食育」を実践する中、弁当持参＝食の選択＝食育、とする事が、正しい（＝横浜らしい）教育方針と言えるでしょうか？ 教育委員会の示す方針には疑問が残ります！

又、3 つ柱の中には「仲間や家族とのコミュニケーション」があげられていることから、横浜市教育委員会の方針も「親の愛情＝弁当づくり」という少数派の意見と一致している事が明らかです。

### 行政サービスをめぐる都市間競争の時代へ

横浜市は 2019 年（平成 31 年）には人口のピーク（374 万人）を迎え、東京オリンピックが行われる 2020 年からは、開港以来初となる人口減少の時代に入ります。横浜市は既に、30～40 代の年代の人口は転出超過に転じている中、子育て世代をサポートする為に、「待機児童ゼロ」の政策だけでなく、「中学校給食の実現」も取り組む必要のある優先順位の高い課題であると考えています。

我が会派は重要政策の 1 つとして、中学校給食の問題を、引続き議会の中で取上げ、中学校給食推進の姿勢を貫いて参ります！！

### アンケート自由記入欄に寄せられた具体的意見

#### Q 中学校給食へのあなたの意見を聞かせてください

 住民税は世田谷と変わらないのに、小児医療費助成制度も小学校 1 年生までですし、横浜がこんなにも子育てのしにくい町だったなんて、引っ越してみても本当に後悔しています。みなとみらいの方ばかりにお金をかけないで少しは市民の生活のことを考えていただきたいと思います。（30 歳代女性）

 中学校で給食じゃないと聞いてびっくりしました。ありません。母親が働きに出る世代なのに負担があります。うちは三人男の子なので大変です。（40 歳代女性）

 私は東京の中学校でしたが、みんなが協力して給食の準備をして一緒に食べる給食がよかったと思います。もちろん保護者の負担軽減にもつながり、なぜ横浜市でいつまでも中学校給食が実施されないのか不思議でなりません！（40 歳代女性）

※他にも多数の貴重なご意見を頂きました。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。